

食品安全研究会

【食品微生物研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 部会全体会議 2月24日、出席者：33名、於 キューピー(株) 1) 各分科会の活動報告 (MALDI-TOF/MS 分科会、芽胞菌分科会、チルド食品勉強会、非加熱殺菌勉強会) 2) 2016年度活動について ・ 部会全体会議+勉強会で活動することで合意 ・ 勉強会は、過酢酸製剤などの薬剤殺菌、非加熱殺菌技術、デジタル PCR、微生物検査のサンプリングプランを計画 2. 勉強会 2月24日、参加者：59名、於 キューピー(株) 勉強会テーマ：次世代シークエンサーの基礎と事例 1) イルミナ社よりプレゼンテーション 2) ライフテクノロジー社よりプレゼンテーション 3) 東京海洋大学 高橋肇先生より講演 次世代シークエンサーは何に使える?～微生物検査への応用～</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 各部会の活動報告 ・ MALDI-TOF/MS 分科会：3月16日に分科会メンバーと(独)製品評価技術基盤機構 (NITE) バイオテクノロジー部門 (NBRC) 川崎先生を訪問し、意見交換および見学会を行った。ディスカッションの結果、ILSI 食品微生物研究部会への協力は可であり、参加メンバーからは連携を進めたいとの声が多く上がった。次回の部会にて決議し進める。 ・ チルド食品勉強会：メンバー間での論文調査を実施。次回5月18日に読み合わせ会を実施予定。 ・ 非加熱殺菌勉強会：4月6日農研機構 食品研究部門 山本先生を訪問し、高圧殺菌や非加熱殺菌の現状についてディカッションした。次回、勉強会での基調講演を依頼。 2. 次回、部会全体会議 5月24日13:00-を予定、於 花王(株) 1) 各分科会の活動報告 (MALDI-TOF/MS 分科会、芽胞菌分科会、チルド食品勉強会、非加熱殺菌勉強会) 2) NITE との連携について決議 3. 次回、勉強会：ILSI メンバーであれば誰でも参加可 5月24日14:00-を予定、於 花王(株) 勉強会テーマ：高圧殺菌、過酢酸等の非加熱殺菌技術の現状 1) 過酢酸メーカー (エコーラボ、小津産業) よりプレゼン 2) 農研機構 食品研究部門 山本先生からの基調講演 テーマ「(仮題) 高圧殺菌等の非加熱殺菌の現状と展望」</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>1. 各部会の活動報告 ・ MALDI-TOF/MS 分科会：5月24日の部会において、製品評価技術基盤機構 (NITE) 川崎先生と、ILSI 食品微生物研究部会との協働研究体制についての説明を行った。覚書(秘密保持契約)に関しては、NITE と各企業の間で契約することで承認を得た。6月29日に NITE と打合せを行い、具体的な活動について意見交換を行った。 ・ チルド食品勉強会：5月18日イギリスチルド食品に関する資料や低温増殖性芽胞菌に関する文献の読み合わせ実施。次回8月3日開催予定。 2. 部会全体会議・勉強会 5月24日13:00-17:30、於 花王(株)</p>

	<p>3) 各分科会の活動報告 (MALDI-TOF/MS 分科会、芽胞菌分科会、チルド食品勉強会、非加熱殺菌勉強会)</p> <p>4) NITE との連携について決議</p> <p>5) 勉強会テーマ：高圧殺菌、過酢酸等の非加熱殺菌技術の現状 ①過酢酸殺菌について (エコラボ、小津産業) よりプレゼン ②農研機構 食品研究部門 山本先生からの基調講演 テーマ「高圧殺菌等の非加熱殺菌の現状と展望」</p> <p>3. 次回、部会全体会議について 8月26日13:00-を予定、於 サントリーワールドリサーチセンター ・勉強会：大阪府立大学 土戸先生のご講演 テーマ「(仮題) 耐熱菌と損傷菌について」</p>
7, 8 月	<p>1. 分科会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> • MALDI 分科会：NITE との協力体制、MALDI メーカーとのデータベース拡充について進捗確認を実施 • チルド食品勉強会：チルドにおいて危害となる菌の論文の読み合わせを実施 • NGS プロジェクト：発足経緯と今後の方針について説明。 ILSI Europe 主催の NGS 会議 (9/9、ベルギー) に出席予定 <p>2. 部会全体会議・勉強会 8月26日(金)13:00-17:00 サントリーWRS (京都) 部会全体会議：32名、勉強会：44名が参加</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各分科会からの活動報告 2) その他報告 ISO-TC34-SC9 (2017) からの協力依頼 3) 勉強会 講師：大阪府立大学 土戸先生 演題名：食品殺菌における細菌芽胞と損傷菌の問題 <p>3. 次回部会予定 11月末頃に部会全体会議と勉強会を予定</p>
9, 10 月	<p>1. 分科会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> • 芽胞菌分科会：10/3 日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木専務理事と打ち合わせを実施①②。 (ア) 統一検査方法文書化：缶詰時報投稿用報文のまとめ中 (イ) 砂糖原料のリスク調査・缶詰時報投稿用報文のまとめ中 (ウ) 9/5,10/27 千代田工販打ち合わせ • MALDI 分科会：NITE との覚書を締結中。 • チルド食品勉強会：チルドにおいて危害となる菌の論文の読み合わせを予定 (11/8) • NGS プロジェクト：ILSI Europe 主催 NGS 会議 (9/9 ベルギー) に出席し、10/7 プロジェクトメンバーへの報告会を実施。 <p>2. 次回、部会全体会議・勉強会 12月9日(金) 13:00-18:00 和光純薬工業(株)研修所 (静岡)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 部会全体会議 <ul style="list-style-type: none"> ・各分科会からの活動報告 ・2017年度の活動計画策定 ・その他報告 2) 勉強会 講師：日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木先生 演題名：容器詰チルド食品と微生物 —安全性とその評価—
11, 12 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>①芽胞菌研究分科会</p> <p>以下の3テーマについて、論文作成、外部発表を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甜菜糖原料からの高温性偏性嫌気性細菌の混入リスク精査 ・高温性偏性嫌気性細菌の統一検査法の確立

- ・好熱性好酸性細菌の各種酸性飲料中での増殖性評価およびそのリスクに関する考察

②MALDI-TOF MS研究分科会

NITE との共同研究契約を締結し、真菌のマスペクトルデータ取得の高効率化、微生物データベース拡充等に取り組む予定。

③チルド勉強会

11月に勉強会を実施。セレウス菌やボツリヌス菌に関する論文の読み合わせを実施。また、食中毒菌以外の腐敗原因菌の情報についても検討する。

④(仮称)飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動

2017年度より新たな分科会として発足：飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動の要望が高いことへの対応として、開栓品の微生物汚染情報や文献情報を取りまとめ、そのレビューを ILSI 誌等に寄稿する活動を行う。

2. 部会全体会議

日時：12月9日(金)13:00-14:30、12月10日(土)9:00-10:00

場所：和光純薬工業(株)研修所(静岡)、参加者：35名

- ・各分科会からの活動報告
- ・2017年度の活動計画策定
- ・その他、審議および報告

3. 勉強会

日時：12月9日(金)15:00-17:30

場所：和光純薬工業(株)研修所(静岡)

テーマ：容器詰チルド食品と微生物ー安全性とその評価ー

講師：日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木先生

4. 次回、部会全体会議・勉強会の予定

日時：2017年1月31日13:00-18:00 場所：キューピー(東京)

勉強会テーマ1：NITE との共同研究

勉強会テーマ2：ノロウイルスに関する最新の研究

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性試験 WG (4 月予定) の準備。 ・ 次回部会、勉強会 (7 月予定) の準備。
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性試験 WG 準備 ・ 日程 : 5/19 (木) 14-17 時 於 味の素(株) ・ 議題 : 食品の安全性評価における代替法
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ WG 活動 ・ 安全性試験 WG 5/19 (木) 14:00-17:00 於 味の素(株) 「食品の安全性評価における動物実験代替法」に関し、情報共有およびディスカッション。
7, 8 月	特になし
9, 10 月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次期活動のための準備 打合せ (10/6) 今後の部会活動の柱と 寄付講座発展型創設に向けたテーマ提案に関して議論。 2. 勉強会準備 福島医科大学 村上道夫先生によるリスク評価、リスクコミュニケーションに関する勉強会の開催決定。 3. 次回部会及び勉強会予定 11/14 (月) 於 ILSI 事務局
11, 12 月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部会および勉強会 部会 11/14 13:30-15:00 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなテーマ提案について ・ 次年度活動について 勉強会 11/14 15:30-17:00 演題 : リスク管理に向けた評価とコミュニケーションの深化 講師 : 福島医科大学 村上道夫先生 2. 次回部会および勉強会 (JECFA 報告会) 調整

食品安全研究会

【香料研究部会】

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

バイオテクノロジー研究会

◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】

<p>1, 2 月</p>	<p>部会開催 (2月15日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ERA 調査報告書第 26 号勉強会 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ERA プロジェクト調査報告第 25 号 (JAN2016) 1/14 発刊。 (イ) ERA プロジェクト調査報告第 25 号 (MARCH2016) 3 月発刊予定 2. ILSI CERA ワークショップ開催について <ul style="list-style-type: none"> (ア) プログラム案を承認 (イ) 日時：5 月 19 日、20 日、場所未定 (ウ) 目的：Assessment Endpoints を明確にし、そのために必要な評価項目を科学的に精査し今後の生物多様性影響評価の在り方を探る (エ) 1 日目はオープンなワークショップ、2 日目は有識者とのクローズドなワークショップ。 3. 勉強会スケジュール <ul style="list-style-type: none"> (ア) 2 月 15 日 食安委事務局次長 東條氏 (イ) 4-5 月 高度精製品のリスク評価のあり方 (ウ) 6 月 アレルギー関係で手島先生が候補 (エ) 10 月 未定 4. ISO 現状報告と今後について <ul style="list-style-type: none"> ➢ バイオ部会からは引き続き末木さんに委員として参加して頂く。 5. 勉強会開催 (2月15日) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 講師：食安委事務局次長 東條氏 30 名を超える参加者があり、食安委における遺伝子組換え食品に関する安全性評価について、活発な意見交換が行われた。
<p>3, 4 月</p>	<p>部会開催 (4月14日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ERA 調査報告書第 27 号勉強会 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ERA プロジェクト調査報告第 26 号 (MARCH2016) 4 月発刊。 (イ) ERA プロジェクト調査報告第 27 号 (MAY2016) 5 月発刊予定 2. -ILSI CERA ワークショップ開催について <ul style="list-style-type: none"> (ア) プログラム案を承認 (イ) 日時：5 月 19 日、20 日、場所：ベルサール日本橋 (ウ) 目的：Assessment Endpoints を明確にし、そのために必要な評価項目を科学的に精査し今後の生物多様性影響評価の在り方を探る。講演者は全て決定。 (エ) 1 日目はオープンなワークショップ、2 日目は有識者とのクローズドなワークショップ。 3. GM 食品添加物の問題点と今後について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 微生物分科会委員より GM 食品添加物における 2 つの問題点についての報告があり、その ILSI Japan としてとるべき科学的アプローチに関する議論がなされた。
<p>5, 6 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ERA プロジェクト調査報告 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ERA プロジェクト調査報告第 27 号 (MAY2016) 6 月発刊 (イ) ERA プロジェクト調査報告第 28 号 (JULY2016) 8 月発刊予定 2. 5 月 19、20 日 ILSI CERA ワークショップ開催 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 日・米・豪の Assessment Endpoints とそのために必要な評価項目の比較が行われ、これからの生物多様性影響評価のあり方が議論された。 (イ) 3 カ国間で Assessment Endpoints に大きな差異はなく、形態的特性、中でも雑草性の評価が重要であるとの理解が得られた。また、雑草性に関する評価を海外データにより評価することは科学的に可能であるとの議論がなされた。 (ウ) 両日とも非常にオープンな雰囲気での科学的な議論が出来、大変有意義であった。

	<p>(エ) フォローアップの勉強会を9月か10月に行うことを検討中。</p> <p>3. 研究会は7月13日に予定。</p>
7, 8 月	<p>全体会議を7月13日に開催</p> <p>1. ERA プロジェクト調査報告第28号勉強会 (ア) ERA プロジェクト調査報告第27号 (MAY2016) 6月発刊 (イ) ERA プロジェクト調査報告第28号 (SEP2016) 9月発刊予定</p> <p>2. GM 食品添加物：問題点の理解と今後の進め方について討議。勉強会の開催やパブコメの際の意見提出などが話し合われた。今後は事態の推移を見ながら GM 食品添加物のグループが提案を出すことになった。</p> <p>3. 今後の勉強会：以下が提案された。 (ア) 「高度精製添加物の自主判断基準の考え方」、10月ごろ。 (イ) 5月の ERA ワークショップのフォローアップ勉強会、10-11月開催。 (ウ) 林先生の ILSI CERA の報告 (次回のバイオ研究会の際)。 (エ) アレルギー誘発性に関するワークショップは来年度。</p> <p>4. NBT ワークショップ：今後も検討を続ける。</p> <p>5. ERA 報告書の今後：幾つかのオプションが出、今後検討することとなった。</p> <p>6. 会計報告：現状を把握した。</p> <p>次回は9月16日。終了後、林先生の勉強会。</p>
9, 10 月	<p>全体会議を9月16日に開催</p> <p>1. ERA プロジェクト調査報告第29号勉強会 (ア) ERA プロジェクト調査報告第28号 (SEP2016) 9月発刊 (イ) ERA プロジェクト調査報告第29号 (OCT2016) 10月発刊</p> <p>2. GM 食品添加物の今後について： (ア) 高度精製食品添加物：高度精製添加物の自主判断基準に関する7月29日の食安委専門調査会の議事録は出たが、親委員会にはまだ報告されていない。 (イ) 高度精製食品の考え方策定：日添協で協議する。 (ウ) 高度精製食品添加物の飼料としての使用：7月13日の食安委で食品として安全性を確認したものを飼料添加物としての使用がなされる場合は食安委への諮問は不要と報告。 (エ) 勉強会：アの自主判断基準が明確になった段階で考える。</p> <p>3. ERA ワークショップのフォローアップ勉強会 11月2日はスケジュールが合わない為延期とする。その後11月14日に行うことが決定、現在準備を進めている。約30人規模で開催。5月19、20日のワークショップで宿題となった競合における優位性を見るための評価項目の検討を行う。</p> <p>4. NBT ワークショップ (ア) 11月15日に決定したが、その後、最新の知見の発表が11月15日では間に合わないとの事で、来年2-3月に延期することとなった。</p> <p>5. ERA 報告書の今後 (ア) 林先生から300報以降も続けても良いとの意向が示されたため、続けていくことで合意。</p> <p>6. 会計報告：現状を把握した。</p> <p>7. 研究会名 (ア) 事務局からサステイナビリティ研究会としてはどうかとの提案があり、検討した結果、サステイナビリティ研究会の名前では活動内容が分かりづらいのでバイオテクノロジー研究会のままで行くことで合意。また、部会は当面なくすことで合意。</p> <p>8. 研究会人事異動 (ア) 現在副会長の味の素の小林氏に代わり、加村氏が副会長に就かれた。</p> <p>9. ILSI-SE Asia 会議報告 (ア) 加村氏より、会議では遺伝子組換え技術は食物のサステイナビリティのために</p>

	<p>重要であることが議論されており、ILSI が重要視している課題であることが報告された。</p> <p>全体会議の後で勉強会を開催。林先生から ILSI CERA Update のお話があり、ILSI CERA の設立経緯から林先生のご活躍を含め ILSI CERA の現状が報告された。</p>
11, 12 月	<p>5 月 ERA ワークショップ・フォローアップ勉強会 11 月 14 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全部で 30 名近い参加があった。ILSI Japan 側から 5 月のワークショップのまとめとその後合意した Assessment endpoints の一つである競合における優位性に関して何を評価すれば良いのかについての提案を行い、その後で雑草の専門家として農研機構の黒川先生に「雑草の特徴について」の講演をお願いした。話し合った結果、雑草性をもたないトウモロコシ・ワタが侵略的雑草になるためには、まず、自生性を獲得する必要がある、自生性とは休眠性、脱粒性を持つことである。トウモロコシ・ワタがこれらの特性を獲得するかについては、米国のほ場試験データにより評価することができると考えられる（データトランスポートビリティ）となった。侵略的雑草になるかどうかを判断するときに、自生性がなければ侵略的雑草になることはないという論文を ILSI を中心に作成し、今後議論を深めていくこととした。 <p>全体会議を 12 月 15 日に開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ERA プロジェクト調査報告第 30 号勉強会 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ERA プロジェクト調査報告第 29 号 (OCT2016) 10 月発刊 (イ) ERA プロジェクト調査報告第 30 号 (JAN2017) 1 月発刊予定 2. 2017 年の計画 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 研究会 6 回 (イ) ERA 報告書 6 報 (ウ) 勉強会 3 回 (エ) ISBGMO への参加 (オ) ERA workshop (9-10 月) (カ) NBT workshop (5 月、または 9-10 月) 3. GM 食品添加物の今後について： <ul style="list-style-type: none"> (ア) 高度精製食品添加物、高度精製食品について大きな進捗はない。今後、勉強会をどういう目的で行うのかを話し合い、実現させる。 4. NBT ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> (ア) 11 月 15 日に決定したが、その後、最新の知見の発表が 11 月 15 日では間に合わないとのことで、来年 2-3 月に延期することとなっていたが、更に延期が必要な情勢。現状では最速 5 月、あるいは 9-10 月も考える。農水省は 5 月に ILSI と SIP の共催を望んでおり、それを考慮しながら計画を立てる。 5. 会計報告：現状を把握した。 6. 研究会人事異動 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 現在副会長のバイエル クロップサイエンスの在田氏に代わり、ダウ・ケミカルの高橋氏が副会長に就かれた。 (イ) 協和発酵の窓口が川田氏から野口氏に変更となった。

栄養健康研究会

【栄養研究部会】

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 7 回栄養とエイジング国際会議」フラッシュレポート原稿校正作業 ・ メタボリックシンドロームと認知機能障害 WG：ミトコンドリア機能に関する勉強会のフラッシュレポート原稿校正作業
3, 4 月	<p>部会全体会議（4月 27 日 15 時－17 時、出席者 10 名）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 部会員異動：退会 1 名、新規加入 1 名 2) 総会報告：部会活動関連議案、質疑について 3) MetS と認知機能障害 WG 勉強会案について：血流量と認知機能をテーマとする勉強会案開催で一致 4) 時間栄養学の最近の動向の概略について：次回部会で詳細報告 5) 部会の開催について：隔月開催
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会講師交渉（5 月 18 日）
7, 8 月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 2 回部会会議（7 月 1 日 15:00 – 17:00、於 IILSI 会議室、15 名）、議題：①時間栄養学研究の現状解説（三井 WG リーダー）、②「睡眠の質と食生活」最新情報概説（桑田先生）、③「脳機能を支える神経－血管連関（仮題）」の勉強計画について、④「健康な食事」分科会への対応について。 2. WG 勉強会開催（8 月 24 日 15:30 - 17:10、於 IILSI 会議室、24 名）。演題名：「脳機能を支える神経－血管連関」、講師：西島壮准教授（首都大学東京 人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域 スポーツ神経科学研究室）。
9, 10 月	特になし
11, 12 月	<p>12 月 2 日会議開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康な食事研究会」設立準備状況紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ タスクフォース結成 ・ キックオフシンポジウム（2017/2/22 開催予定） ・ 研究会参加企業を募集し、3 月末に活動開始予定 2. 2017 年活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会（外部講師招聘、最新情報収集） ・ ライフサイエンスシンポジウム（2018 年 2 月）の企画・準備 ・ 「栄養とエイジング」国際会議（2019 年秋）の企画 3. 次期部会長選出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017 年からの部会長に森永乳業の篠田一三氏が選出された。

栄養健康研究会

* GR プロジェクト

1, 2 月	GR 法プロトコール改善のための検討
3, 4 月	GR 法プロトコール改善のための検討
5, 6 月	5/26 GR プロジェクト会議 於 ILSI Japan 会議室 ・ GR 測定のプロトコール改訂版の検討についての報告 ・ 第 3 回多施設試験の実施について
7, 8 月	第 3 回多施設試験を 10 施設で実施 (8 月～)
9, 10 月	第 3 回多施設試験を 10 施設で実施 (8 月～)
11, 12 月	第 3 回多施設試験を 10 施設で実施 (8 月～)

栄養健康研究会

【茶類研究部会・茶情報分科会】

1, 2 月	特になし
3,4 月	<p>3 月 18 日、第 39 回茶情報分科会を開催。</p> <p>茶類の有効性・安全性情報の発信に関連して、部会内特別プロジェクトの成果発信の手続きについて確認を行った。</p> <p>現行テーマである茶成分データベース拡張の収束に向けての手順の確認および新たに取り組むテーマ案の内容について議論を行った。</p>
5,6 月	<p>5 月 20 日、第 40 回茶情報分科会を開催。</p> <p>① 茶類の有効性・安全性情報の発信：部会内特別プロジェクトの成果発信に伴う手続きについて確認を行った。</p> <p>② 茶成分データベース：茶試料の保存法および未分析試料の扱いについて確認を行った。</p> <p>③ 茶類研究部会新規テーマ：茶情報分科会終了後、新たに取り組むテーマの方向性について議論を行った。</p>
7,8 月	<p>7 月 5 日、第 41 回茶情報分科会を開催。</p> <p>1. 茶類の有効性・安全性情報の発信：投稿論文がオープンアクセスとなった。</p> <p>2. 茶成分データベース：茶試料の保存法および未分析試料の扱いについて決定した。得られたデータは部会内で共有する。</p> <p>茶類研究部会新規テーマ：紅茶の成分研究、テアフラビン等有効成分に関する研究を、情報収集、勉強会を中心に進める。改めてメンバーを募集する。</p>
9,10 月	<ul style="list-style-type: none"> 茶成分データベース：静岡県立大学で、中国茶試料の測定試料を調製した。カテキン、カフェインを分析中。得られたデータは部会内で共有する。 茶類研究部会新規テーマ：次期テーマを紅茶成分のテアフラビン等有効成分に関して情報収集、勉強会を中心に進めることを決定した。
11,12 月	<p>11 月 14 日会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 茶成分データベース：分科会での中国茶試料の測定結果の報告。カテキン、カフェインの測定結果を分科会内で共有した。 茶類研究部会新規テーマ：次期テーマを紅茶成分のテアフラビン等有効成分に関して情報収集することを決定。中山先生と鈴木氏で、収集する情報に対する内容を打ち合わせて、たたき台作成する。

食品機能性研究会

◆寄付講座「機能性食品ゲノミクス」

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none">第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none">第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none">第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。9/14 に公開シンポジウム開催予定。
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none">第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。9/14 に公開シンポジウム開催予定。
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none">第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。研究成果シンポジウム：9/14（於東京大学農学部弥生講堂一条ホール）「"食と健康" に関わる統合食品科学のニューフロンティア」を統一テーマとし、約 150 名が参加。
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none">第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。

CHP

【Project PAN (Physical Activity and Nutrition)】

<p>1, 2 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>1/12, 18, 20, 22、「すみだテイクテン 第 11 期フォローアップ教室」(墨田区 4 会場)</p> <p>2/22-24 社会福祉法人日の出福祉会主催「インストラクター養成講習」(講師:木村美佳、兵庫県加古郡)</p> <p>2/29-3/2 津和野町シルバー人材センター主催「介護予防リーダー養成講習」(講師:木村美佳、島根県津和野町)</p> <p>2/9, 17, 19, 25「すみだテイクテン 第 11 期フォローアップ教室」(墨田区 4 会場)</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>2/29-3/2 津和野町シルバー人材センター主催「介護予防リーダー養成講習」(講師:木村美佳、島根県津和野町)</p> <p>3/1 すみだテイクテン第 11 期フォローアップ教室」(墨田区 1 会場)</p> <p>3/3 墨田区特定高齢者事業「口腔機能向上プログラム」講義 「食べて生き生き術」(講師:木村美佳、墨田区役所)</p> <p>3/7-9 「テイクテンインストラクター養成講習」(社会福祉法人日の出福祉会委託) (講師:木村美佳、兵庫県加古郡)</p> <p>3/14-16 津和野町シルバー人材センター主催「テイクテン介護予防リーダー養成講習」(講師:木村美佳、島根県津和野町)</p> <p>3/28-31 岩国市社会福祉協議会主催 「テイクテン介護予防リーダー養成講座」(講師:木村美佳、山口県岩国市)</p> <p>3/9, 28 「すみだテイクテン自主グループサポート」(墨田 2 会場)</p> <p>4/28 「すみだテイクテン自主グループサポート」(墨田 1 会場)</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>5 月 18 日 「すみだテイクテン」自主グループ交流会(墨田区中ノ郷信用組合本店会議室)</p> <p>5 月 24 日 震災被災地支援「いしのまきテイクテン」(講師:木村美佳、北上地区仮設にっこりサンパーク団地集会所、石巻専修大学山崎ゼミ)</p> <p>6 月 8 日 ビデオ「みんなで広げるテイクテン」を YouTube にアップ</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>7/11 世田谷区主催介護予防教室(講師:木村美佳、世田谷区上祖師谷グループホームかたらい)</p> <p>7/20-21 「テイクテンインストラクター養成講習」(講師:木村美佳、ILSI 事務所)</p> <p>7/2 「すみだテイクテン自主グループサポート」(墨田 1 会場)</p> <p>8/1-3 吉賀町社会福祉協議会主催「テイクテン介護予防リーダー養成講座」(講師:木村美佳、島根県吉賀町)</p> <p>8/22-24 吉賀町社会福祉協議会主催「テイクテン介護予防リーダー養成講座」(講師:木村美佳、島根県吉賀町)</p> <p>8/25 「すみだテイクテン自主グループサポート」(墨田 1 会場)</p>
<p>9, 10 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>9/1, 7, 13, 15, 27, 28, 29 すみだテイクテン教室(みどりコミュニティセンター,すみだ女性センター,スポーツプラザ梅若)</p> <p>9/5-6 震災被災地支援「いしのまきテイクテン」(北上地区仮設にっこりサンパーク団地集会所)</p> <p>10/5, 11, 13, 19, 25, 27 すみだテイクテン教室(みどりコミュニティセンター,すみだ女性センター,スポーツプラザ梅若)</p> <p>10/17, 19 津和野町シルバー人材センター主催「介護予防リーダー養成講座」(島根県津和野町)</p>

	<p>10/18, 19 津和野町シルバー人材センター10周年記念講演（日原山村開発センター,津和野町町民センター）</p> <p>10/18 「テイクテンきよらプロジェクト」発足会議（参加団体：島根県,山口県4市町村の団体【津和野町/益田市シルバー人材センター,吉賀町/岩国市社会福祉協議会】及びILSI,14名参加,島根県吉賀町）</p> <p>10/25 いきいきランチ教室（八広地域プラザ,墨田区）</p>
11, 12月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>11/2, 8, 10, 16, 22, 24, 30 すみだテイクテン教室（みどりコミュニティセンター, すみだ女性センター, スポーツプラザ梅若, 墨田区）</p> <p>11/1, 8, 15, 22, 29 いきいきランチ教室（八広地域プラザ, 墨田区）</p> <p>11/11 テイクテン自主グループ交流会（すみだリバーサイドホール）</p> <p>11/14 墨田区介護予防サポーター養成講座（墨田区役所）</p> <p>11/15 江戸川人生大学 介護・福祉学科1年次講義（篠崎文化プラザ, 江戸川区）</p> <p>11/21 足立区介護予防講演会 「一緒にやろう老化を遅らせる運動・栄養プログラム「テイクテン!®」」（生涯学習センター学びピア 21, 足立区）</p> <p>12/6 震災被災地支援:いしのまきテイクテン（北上地区仮設にっこりサンパーク団地集会所, 宮城県石巻市）</p> <p>12/7, 8, 13, 27 すみだテイクテン教室（みどりコミュニティセンター, すみだ女性センター, スポーツプラザ梅若, 墨田区）</p> <p>12/6, 13, 20, 27 いきいきランチ教室（八広地域プラザ, 墨田区）</p>

CHP

【Project SWAN(Safe Water and Nutrition)】

1, 2 月	1-2 月 地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いたトレーニング (ナムディン省 29 村、ベトナム) 1-2 月 地域ヘルスワーカーによる料理教室、紙芝居式教材を用いた栄養・食品衛生教育、栄養不良児の母親を対象とした栄養カウンセリング及び拡声器による情報提供 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム)
3, 4 月	3 月 SWAN3 実施に関わる契約を締結 (ハナム省・ニンビン省、ベトナム) 3-4 月 地域ヘルスワーカーによる料理教室、紙芝居式教材を用いた栄養・食品衛生教育、栄養不良児の母親を対象とした栄養カウンセリング及び拡声器による情報提供 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム)
5, 6 月	5 月 30 日 SWAN3: キックオフミーティング (参加者 60 名、ニンビン省、ベトナム) 6 月 24 日 SWAN3: キックオフミーティング (参加者 32 名、ハナム省、ベトナム) 5-6 月 SWAN3: 地域ヘルスワーカーによる料理教室、紙芝居式教材を用いた栄養・食品衛生教育、栄養不良児の母親を対象とした栄養カウンセリング及び拡声器による情報提供 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム)
7, 8 月	7 月 21-30 日: 「ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業 (AIN)」におけるベースライン調査結果報告 (ベトナム) 7-8 月: 地域ヘルスワーカーによる料理教室、紙芝居式教材を用いた栄養・食品衛生教育、栄養不良児の母親を対象とした栄養カウンセリング及び拡声器による情報提供 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム) 8 月 18, 19, 22 日: 地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いた情報提供方法に関する研修 (ハナム省、ベトナム) 8 月 22, 23, 24, 25, 29, 30 日: 地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いた情報提供方法に関する研修 (ニンビン省、ベトナム)
9, 10 月	9/1, 5-6, 21-23, 28-30 SWAN3: 地域ヘルスワーカー対象の情報提供方法に関する研修 (ハナム省・ニンビン省、ベトナム) 9/1 カラワン県における SWAN 実施のための会議 (カラワン県行政関係者、インドネシア人専門家、ILSI, 23 名参加, カラワン県、インドネシア) 9/19-29 「ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業 (以下 AIN)」における実施 1 年後調査 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム) 10/3-5 SWAN3: 地域ヘルスワーカー対象の情報提供方法に関する研修 (ハナム省、ベトナム) 9-10 月 AIN: 料理教室 15 回, 栄養カウンセリングや栄養・食品衛生に関する情報提供を継続的に実施 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム)
11, 12 月	11/1-7 SWAN: プロジェクトサイト選定のための現地調査を実施 (インドネシア)

CHP

【Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)】

1, 2 月	2/11-12 フィリピン食品栄養研究所 (FNRI) 主催「鉄強化米プロジェクト」ワークショップ (参加者 フィリピン国立食品局、社会福祉開発省、教育省他、マニラ)
3, 4 月	特になし
5, 6 月	6 月 7 日 鉄強化米プロジェクトのコンポステラバレーにおける導入成果報告会 (ミンダナオ島コンポステラバレー州、フィリピン) 6 月 21 日 フィリピン食品栄養研究所主催フォーラム「革新的な鉄強化米技術の今後の展開に向けて」 (参加者 80 名、ルソン島イロコス州、フィリピン)
7, 8 月	特になし
9, 10 月	特になし
11, 12 月	12/15-16 第 3 回 栄養強化米の開発と市場導入のための多国間コンソーシアム会議 (参加国 インド, ベトナム, フィリピン, 米国, 日本等 20 名、ニューデリー, インド)

CHP

◆CHP 全体

1, 2 月	1/15 ニューズレター（英語版）発行（No.22）
3, 4 月	3/7-9 今後の CHP 活動のグローバル化に向けての検討会を開催
5, 6 月	
7, 8 月	特になし
9, 10 月	特になし
11, 12 月	特になし

国際協力委員会

<p>1, 2 月</p>	<p>平成 28 年 1 月 19 日：平成 28 年第 1 回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI Japan 会議室 参加者 15 名 ・ H27 農水省プロジェクトの進捗状況 <p>1 月 23 日：ILSI本部総会 (St. Petersburg) - アジア支部会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H27 農水省プロジェクトの進捗状況の確認とフォローアップ ・ 栄養/健康強調表示に関するアジア支部合同作業の提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/6 月までに情報の更新 ・ 8 月 (BeSeTo 会議) までに報告文書案の作成 <p>2 月 17 日：H27 農水省プロジェクト報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品産業のグローバル展開～食品規格等に関するデータベース、ASEAN 経済統合と TPP～ (東京) 参加者 74 名 <p>講演内容については、以下のサイトに掲載した。 http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/COM/W2016/EastAsia2016.pdf</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>第 2 回国際協力委員会 日時・場所：2016 年 3 月 10 日 (木) 15:00 - 16:20 ILSI Japan 会議室</p> <p>出席者：計 16 名</p> <p>議事：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 農水省プロジェクトについて： <ol style="list-style-type: none"> (ア) H27 年度調査報告書 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 月 14 日 (月) 農水省に提出 ・ 作成したデータベースは、3/14 にウェブ上で公開 (http://www.shokuhin-kikaku.info/)。 (イ) H28 年度以降の見通し： <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの形のままの継続はない見込。 ・ データの処理・更新など、H28 年度以降の取扱いについては要協議 (所有権は農水省)。 2) アジア諸国の栄養表示、健康強調表示等に関するデータの更新について： <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養表示、健康強調表示データの更新：2013 年のデータを基に 2016 年版にアップデートを各アジア支部に依頼。 ・ 3/14 以降に各支部に質問票を発送し、5 月を目処に回答を集める。 ・ 8 月末の BeSeTo 会議までに取りまとめて形を作る--当委員会メンバーの共同作業。 ・ 論文形式にまとめ雑誌に掲載できたらよい。 ・ 日本よりコーデックスとの対比を中心にまとめたらよい、health claim の定義が国ごとに異なるのでその整理、分析に大変興味がある、等の意見が出た。 3) 第 8 回 BeSeTo 会議： <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/30, 31 北京で開催。セミナーの課題として、「食品の包装」が挙げている。 4) 次回会議は 5、6 月頃を予定。
<p>5, 6 月</p>	<p>2016 年第 3 回国際協力委員会 2016 年 6 月 27 日 (木) 15:30 - 16:50。ILSI Japan 会議室 出席者： 計 19 名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 農水省プロジェクト： <ul style="list-style-type: none"> ・ H29 年度以降、(JETRO 枠で) 調査することを検討中、現在のデータのメンテナンスも考える必要がある ・ 中東、中南米については、コンサルタントに依頼する必要があるため、メンバーからの情報提供をお願いしたい 2) アジア諸国の栄養表示、健康強調表示等に関するデータの更新： <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア各支部に依頼し、栄養表示、健康強調表示に関するデータを更新した ・ できれば 8 月末の BeSeTo 会議までに取りまとめの形を作りたい--当委員会メンバーの共同作業としたい、論文形式にまとめ雑誌に投稿することを検討中

	<p>3) 第 8 回 BeSeTo 会議を 8/30-31 北京で開催：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Satellite Workshop “Regulations on Food Contact Materials”：日本食品包装協会の住本充弘氏に講演依頼 ・ 通常のBeSeTo会議の発表テーマ候補は、香料の安全性評価方法の変更、食品添加物指定の近況及び公定書第 9 版、HACCP認証制度導入の現状、アジア地区における原料原産地表示の動向、食品安全委員会の雑誌のトピックス“Food Safety” https://www.istage.jst.go.jp/browse/foodsafetyfscj等 ・ 次回会議（8月2日）で、日本からの発表テーマ、発表者を含め参加者を決定 <p>4) 次回は、8月2日（火）に開催予定（15:00-17:00、事務局会議室）</p>
7, 8 月	<p>2016 年第 4 回国際協力委員会 8月2日（火）15:00 – 16:00。ILSI Japan 会議室 13名出席</p> <p>1) アジア諸国の栄養表示、健康強調表示等に関するデータの更新について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア各支部に依頼し、栄養表示、健康強調表示に関するデータの更新を行った ・ 7/15 に台北で、台湾、韓国、東南アジア支部と共同プロジェクトについて打合せを行った。栄養表示（nutrition labeling）と健康強調表示（health claim）を分けて作表する。 ・ 栄養表示、サプリメントについては各国並べて一覧表に、健康強調表示は国別に作表。ASEAN の空欄は ILSI SEA に依頼することを検討。 <p>2) 第 8 回 BeSeTo 会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/30-31 北京で開催。 ・ Satellite Workshop “Regulations on Food Contact Materials”：日本食品包装協会の住本充弘氏が講演（8/30 AM） ・ BeSeTo 会議（8/30 PM 及び 8/31）での日本からの発表テーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品機能性成分の安全性評価：池田氏（花王） ・ 香料の安全性評価方法の変更：関谷氏（高砂香料） ・ 食品添加物指定の近況及び公定書第 9 版：小野氏（味の素） ・ 原料原産地表示の動向：浜野氏 ・ 農水省プロジェクトの状況、栄養表示/健康強調表示：浜野氏（一部小野氏（味の素）） ・ その他、日本から宇津事務局長、木村氏（味の素常務）が参加。
9, 10 月	特になし
11, 12 月	特になし

【情報委員会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 委員会開催 2 回 (1 月、2 月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 巻 2 号 (通巻 91 号) : 編集 (2/10 発刊) ・ 24 巻 3 号 (通巻 92 号) : 翻訳、監修、編集 (5/10 発刊予定) ・ 2/29 編集委員会 (通巻 93 号採択論文、翻訳者候補決定)
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 委員会開催 2 回 (3 月、4 月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 巻 3 号 (通巻 92 号) : 翻訳、監修、編集 (5/10 発刊予定) ・ 24 巻 4 号 (通巻 93 号) : 翻訳、監修 (8/10 発刊予定)
<p>5, 6 月</p>	<p>1. 委員会開催 1 回 (6 月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 巻 3 号 (通巻 92 号) : 5/10 発刊 ・ 24 巻 4 号 (通巻 93 号) : 翻訳、監修、編集 (8/10 発刊予定) ・ 6/2 編集委員会 (通巻 94 号採択論文、翻訳者候補決定) ・ 25 巻 1 号 (通巻 94 号) : 翻訳中 (11/10 発刊予定)
<p>7, 8 月</p>	<p>1. 委員会開催 2 回 (7, 8 月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24 巻 4 号 (通巻 93 号) : 8/10 発刊 ・ 25 巻 1 号 (通巻 94 号) : 翻訳、監修、編集 (11/10 発刊予定) ・ 8/29 編集委員会 (通巻 95 号採択論文、翻訳者候補決定)
<p>9, 10 月</p>	<p>1. 委員会開催 2 回 (9, 10 月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 1 号 (通巻 94 号) : 編集 (11/10 発刊予定) ・ 25 巻 2 号 (通巻 95 号) : 翻訳、監修 (来年 2/10 刊行予定) ・ 11/25 編集委員会開催 (通巻 96 号採択論文、翻訳者候補決定) 予定

11, 12 月	<ol style="list-style-type: none">1. 委員会開催 2 回 (11, 12 月)2. ホームページ<ul style="list-style-type: none">・ 日常業務としての更新 (随時)3. 「栄養学レビュー」誌<ul style="list-style-type: none">・ 25 卷 1 号 (通卷 94 号) : 11/10 発刊予定・ 25 卷 2 号 (通卷 95 号) : 監修、編集 (来年 2/10 刊行予定)・ 11/25 編集委員会開催 (通卷 96 号採択論文、翻訳者候補決定)
----------	---

***編集部会**

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none">・「イルシー」誌 125 号、発行・「イルシー」誌 126 号、原稿査読・編集
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none">・「イルシー」誌 126 号、原稿査読・編集
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none">・「イルシー」誌 126 号、発行・「イルシー」誌 127 号、原稿査読・編集
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none">・「イルシー」誌 126 号、発行・「イルシー」誌 127 号、原稿査読・編集
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none">・「イルシー」誌 127 号、発行・「イルシー」誌 128 号、原稿査読・編集
11, 12 月	

事務局

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	<p>ILSI Japan 通常総会は 2 月 17 日、アーバンネット神田カンファレンスにて開催された。</p> <p><審議事項></p> <p>第 1 号議案「平成 27 年度事業活動報告書」承認</p> <p>第 2 号議案「平成 27 年度活動収支計算書、同貸借対照表、同財産目録、及び収益事業損益計算書」承認。</p> <p>第 3 号議案「平成 28 年度事業活動計画書」承認</p> <p>第 4 号議案「平成 28 年度活動収支予算書」承認</p> <p>第 5 号議案 定款の一部改定が承認された。</p> <p><報告事項></p> <p>1. 次期役員の紹介があった。</p> <p>2. 1 月 21 日から 27 日まで米国フロリダ州で開催された ILSI 本部総会の報告がなされた。</p> <p>3. 平成 27 年度農林水産省食品産業グローバル展開インフラ整備事業「食品産業のグローバル展開～食品規格等に関する調査とデータベース、ASEAN 経済統合と TPP～」についての報告会を午後 1 時 30 分より同会場で行うとの案内があった。</p>
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

【事務局】

1, 2 月	<p>○平成 28 年 2 月 25 日付にて役員が選任された。</p> <p>①重任理事・監事 (アイウエオ順、敬称略)</p> <p>理事 阿部 文明 森永乳業 (株) 素材応用研究所長</p> <p>理事 岩元 睦夫 公益社団法人 日本フードスペシャリスト協会会長</p> <p>理事 木村 修一 東北大学名誉教授</p> <p>理事 桑田 有 人間総合科学大学大学院教授</p> <p>理事 古野 純典 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事</p> <p>理事 坂田 隆 石巻専修大学学長</p> <p>理事 清水 誠 東京農業大学 応用生物科学部栄養科学科教授</p> <p>理事 辻村 英雄 サントリーホールディングス (株) 専務取締役</p> <p>理事 戸上 貴司 ILSI Japan CHP (健康推進協力センター) 代表</p>
--------	---

	<p>理事 福島 昭治 中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター所長</p> <p>理事 松山 旭 キッコーマン（株）常務執行役員</p> <p>理事 安川 拓次 花王（株）エグゼクティブ・フェロー</p> <p>監事 小路 正博 （株）森永生科学研究所 代表取締役社長</p> <p>②新任理事</p> <p>理事 宮澤 陽夫 東北大学 未来科学技術共同研究センター（NICHe）教授</p> <p>理事 谷口 茂 （株）明治研究本部 取締役 食機能研究所 所長</p> <p>理事 木村 毅 味の素（株）取締役 常務執行役員</p> <p>③新任監事</p> <p>監事 山田 雄司 山崎製パン（株）中央研究所 所長</p> <p>④退任理事・監事（平成28年2月24日付任期満了）</p> <p>理事 西山 徹 元）味の素（株）顧問</p> <p>理事 山口 隆司 ILSI Japan 事務局長</p> <p>理事 若林 奏 （株）ニチレイ</p> <p>監事 辻 智子 日本水産（株）研究学術顧問</p> <p>○平成28年2月24日付にて山口隆司事務局長が退任し、平成28年2月25日付にて新たに宇津 敦氏が就任した。</p>
3, 4 月	
5, 6 月	6 月末日付にて、総務・経理担当 内田氏退職、7 月より同職に花王（株）俵積田（たわらつみた）氏に業務を委託
7, 8 月	
9, 10 月	特になし。
11, 12 月	特になし。

【理事会】

1, 2 月	<p>○平成28年度第1回理事会（2月8日）</p> <p><審議事項></p> <p>第1号議案「平成27年度事業活動報告書（案）」承認</p> <p>第2号議案「平成27年度活動収支計算書（案）、同貸借対照表（案）、同財産目録（案）、及び収益事業損益計算書（案）」承認</p> <p>第3号議案「平成28年度事業活動計画書（案）」承認</p> <p>第4号議案「平成28年度活動収支予算書（案）」承認</p> <p>第5号議案平成28年2月24日の役員任期満了に伴い、次期役員が選任された。</p> <p>第6号議案 定款一部改定が承認された。</p> <p><報告事項></p> <p>1. ILSI Japan 総会／アジア地域の食品規格等に関する調査</p>
--------	--

	<p>ILSI Japan 総会は 2 月 17 日午前 10 時よりアーバンネット神田カンファレンスにて開催、午後には平成 27 年度農林水産省食品産業グローバル展開インフラ整備事業「食品産業のグローバル展開～食品規格等に関する調査とデータベース、ASEAN 経済統合と TPP～」についての報告会を行う。</p> <p>2. 1 月 21 日から 27 日まで米国フロリダ州で開催された本部総会の概況報告があった。</p> <p>○平成 28 年度第 2 回理事会（2 月 25 日）</p> <p>第 1 号議案 理事長に安川拓次理事が選出された。</p> <p>第 2 号議案 会長木村修一理事が選出された。</p> <p>第 3 号議案 副理事長に桑田有理事、木村毅理事、福島昭治理事、古野純典理事が選出された。</p> <p>第 4 号議案 理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときに職務を代行する副理事長として、桑田有副理事長が選出された。</p> <p><その他></p> <p>山口隆司氏が 2 月 24 日をもって事務局長を退任し、25 日より宇津 敦氏が後任事務局長に就任したとの報告があった。</p>
3, 4 月	<p>第 3 回理事会が平成 28 年 4 月 13 日（水）15 時より開催された。</p> <p>1. 理事長の所信表明</p> <p>新体制になって初の理事会であり、理事長から以下のとおり所信表明があった。</p> <p>『イルシーは転換期にあると感じている。本部との関係、WHO との関係も、過渡期にありがちな問題のひとつととらえることができる。</p> <p>本日の議題はいずれもそれらの課題と関係している。例えば、本部の One ILSI 戦略であるが、我々の研究部会のテーマを One ILSI の視点で見直すことが必要だと考える。これから進んでいくにあたって、協調が大事であるが、それは発展のためのものである。』</p> <p>2. 報告／討議事項</p> <p>下記事項を資料に基づき報告し討議した。</p> <p>(1) ILSI 本部関連</p> <p>宇津事務局長より WHO と ILSI との関係の経緯及び当面の対応について報告した。</p> <p>次回の電話会議に当たって ILSI Japan の対応をこの会で決めることはしないが、今後 ILSI SEAR と協調する方向で努力することとなった。</p> <p>(2) 食品規格基準等調査事業（農水省）の今後</p> <p>浜野特別顧問より 2016 年 3 月 29 日農林水産省食料産業局訪問時の内容につき下記の報告を行った。</p> <p>出席者：櫻庭食料産業局長、栗栖輸出促進課長補佐 横田食品製造課食品企業行動室長他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品規格基準等調査事業の継続の必要性を説明した。 ・櫻庭局長から、「産業界への広報をしっかりとやるように」「法は時とともに変わる、最新情報に更新することが重要」「データベース情報の適切な発信の仕方、企業の関

	<p>連部署（品質管理、海外戦略）や ILSI の支部の連携のあるべき姿を描いてもらえれば、H29 年度から調査を再開できる」との意見・指示をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫻庭局長から輸出促進課と食品製造課で話し合うように指示された。 ・29 年度からの再開のために、今年度中に浜野氏を中心に検討を進めることとなった。 <p>(3) 東大寄付講座の今後</p> <p>宇津事務局長より、2016 年 3 月 23 日、東京大学農学生命科学研究科・農学部フードサイエンス棟 3F、阿部教授室で行われた東大寄付講座打ち合わせについて報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部教授によれば、五神総長は、産官学連携の強化を推進しており、ILSI 寄付講座（1 社でない 3 期継続）を高く評価しており、新たな形の寄付講座の可能性があるとされる。 ・4 期目を続けながら、次の新しい形を模索する。大学に自由度がある（大学がテーマを設定できる）ことに意味がある。 ・3 期目の公開発表は 9 月 14 日一条ホールで開催することに決定。 ・ILSI Travel Award に岡田先生を推薦する。 <p>(4) ILSI Japan の活動、特に部会活動の活性化に向けて宇津事務局長より食品微生物・バイオテクノロジー・食品リスク・栄養の各研究部会長ヒアリングの結果を報告した。状況が厳しい部会については、てこ入れの必要性が指摘された。今後、引続き他の研究部会長のヒアリングを行っていく。</p> <p>(5) CHP グローバル化検討進捗</p> <p>戸上理事より 2015 年 ILSI Annual Meeting, Board of Trustees で提案した Global CHP の進捗について報告した。この中で、アフリカやラテンアメリカに活動を展開する可能性、とくにアフリカでの鉄強化米プロジェクトの進展について詳細な説明が行われた。理事からは「これまで ILSI 本部が行ってきた TAKE10!®（小学生向け）の成果を含めて ILSI Japan が引き継いで、日本における高齢者向けの TAKE10!® と共に発展させるべきである」という提案があった。</p> <p>(6) “One ILSI” Sustainable Agriculture & Nutrition Security について</p> <p>桑田副理事長より “One ILSI” Sustainable Agriculture & Nutrition Security について、食品ロスやヴァーチャル・ウォーター、TPP との関連など、どのような切り口があり得るかという点も含めて報告があった。今後、理事会で研究部会の立上げを含め討議していくことにした。</p>
5, 6 月	<p>第 4 回理事会が平成 28 年 6 月 7 日（火）15 時より開催された。</p> <p>1. 審議事項</p> <p>第 1 号議案 福島昭治氏の理事退任の件 満場一致で承認</p> <p>第 2 号議案 中江大氏の理事選任の件 満場一致で承認 本人承諾</p> <p>2. 報告／討議事項</p> <p>1) 東大寄付講座研究成果シンポジウム (9/14 開催)について報告</p> <p>宇津事務局長より 準備進捗状況の報告があった。6 月半ばには統一テーマ、発表テ</p>

ーマと発表者を決定予定。

2) 東大寄付講座の今後

安川理事長より、東大と打合わせの結果、現在の寄付講座の実施とは別に、農学部を超えた大きな枠組みで、多くの企業が参画できる大きな共通テーマの寄付講座の創設を進める方向であることの報告があった。

3) 新たな研究分科会の提案

同理事長より現在「健康な食事」研究分科会の設置について検討しており、提案の研究分科会設置の目的は、主に外食と中食（弁当・給食・惣菜等）を担う企業がアカデミアと共同して、科学的根拠に基づいて日本人の「健康な食事」の概念を確立し、その普及を図ることで国民の健康の維持・増進に寄与することであることが報告された。

4) 農水省食品規格基準等調査事業の今後

浜野特別顧問より以下の通り報告があった。

- 平成 28 年度調査活動/調査情報は、情報一元化のため、今のデータベースを JETRO にリンクさせることになる見込み。
- 平成 29 年度の本調査事業の再開の有無が、明らかになるのは 9 月以降と推測される。

5) CHP グローバル化検討進捗について

戸上理事より以下の報告があった。

2015 年 1 月の ILSI 本部理事会でプレゼンテーションを行い ILSI 本部のミッションであることが確認され、今後 CHP の活動の範囲、組織、財政等について検討するためのスタディグループが設置された。ILSI JAPAN から戸上理事・山口顧問が選任され、新しい地域でのフィジビリティスタディーを実施する提案が出され、担当者を決め 8 月 12 日を目標にフィジビリティスタディーの結果を報告することとなった。

6) ILSI 本部関連、WHO との関係についての進捗

宇津事務局長より以下の通り報告された。

5 月 28 日の WHA;”WHO’s Framework for Engagement with Non-State Actors”を採択。この枠組みの中で、ILSI は Private sector の中の International Business Association に属すると WHO 事務局から繰り返し言われてきた。

⇒ ILSI=International Business Association と実質的に決定。

7) 定款変更（役員任期条項）について

宇津事務局長より東京都に申請していた定款変更（役員任期の条項）について状況が説明された。

2/17 の総会で決議した定款の変更（役員任期を総会までと明確化）は総会の日が固定でなく、任期が 2 年を超過した場合には法令違反となるため東京都から認証されない見込み。定款を現状のままにするか否かについては次回審議。

8) その他

•2017 年 October 15-20, Argentina Buenos Aires で開催される International Congress of Nutrition 2017 に ILSI は 3 つのシンポジウムを設けるが ILSI JAPAN としては参加しないこととなった。

	<ul style="list-style-type: none"> •福島理事の退任で副理事長が3名になっているので、新副理事長候補は、次回の理事会にて提案予定。 •研究会、研究部会活動強化のためのフォローを徳田一氏（花王）に依頼。 •特別顧問の山口隆司氏は、6月末までで退任。
7, 8月	<p>第5回理事会が平成28年7月28日（木）15時より開催された。</p> <p>報告／討議事項</p> <p>1) 東大寄付講座発展型創設に向けて進捗状況</p> <p>新たな寄付講座は、安全性評価など大きなテーマを対象としたい意向を東大側に伝え、ILSI Japan 内部の体制と担当者を決定した。具体化に向け、タスクフォースを組織し、年内にテーマ案を提示し、来年にはシンポジウムを開催する企画。テーマについて意見交換がなされた。</p> <p>2) 健康な食事研究会（仮）設立に向けての報告</p> <p>存在感を増している外食と中食の改善は食生活の改善につながるため、その実態の解明をコアテーマのひとつとし、外食・中食企業に参加してもらうために魅力的なシンポジウムを企画する必要がある、そのために ILSI Japan 内部でタスクフォースを結成、来年2月開催を企画。高齢者向けの新たなサービスの提案のほうがよいとの意見が出た。</p> <p>3) 「日本くすりと食品機能フォーラム」の概要と進捗</p> <p>ILSI Japan 会員企業が、自社の機能性食品について薬剤師へ説明し、食品の機能に関する知識を持ってもらうことを目的としており、理事会での認識とコミットが必要と考え今回説明に至った。内容については特に意見なく、今後の進め方、他の大学への拡大の可否、栄養の勉強の追加検討など意見が出され、これらを考慮して今後進めることで合意された。</p> <p>4) 食品微生物部会 New Generation Sequencing 分科会設立</p> <p>ILSI Europe 支部からの提案を受け、Expert team に参加することを決め、具体的活動として New Generation Sequencing の食品安全への活用ガイダンスのまとめ、アドバイザーの指名、そのため ILSI Japan 内部に分科会を設立する提案がされ、承認された。</p> <p>5) 定款変更（役員任期条項）について</p> <p>一. 現状のままで定款変更をしない；役員任期は2月25日から翌々年の2月24日までの2年間、二. 役員を総会で選任するよう定款を変更する；役員任期は総会から総会の2年間以内、但し、総会のタイミングで延長の場合ありの2提案をした結果、現状で問題ないとの意見で定款変更しないことが合意された。</p> <p>6) 2016年度損益見込み</p> <p>連結ベース6月末時点で、1.1百万円の赤字の予定。原因は会費の減少、農水省食品規格等調査事業終了に伴う、受託事業で負担させていた人件費・旅費の追加による。改善として新規プロジェクト等で新たな会員を増やす、活動を魅力的にして新たなFUNDを得るなど、収入増加策を講じて新規会員を増やす方針で進めたい旨を報告。</p> <p>7) ILSI 本部関連</p> <p>WHO との関係における進捗について、共同事業は行わないという方針に変わりは</p>

	<p>ないが、8/8の理事会において、WHOをいかに継続的にサポートするか、ILSIが公益のために活動する科学的な組織であることをより強調するためのガバナンス構造改善の議論をする予定。今後もILSI本部の動きを静観することを合意した。他にILSI Mexicoの復活とILSI Middle Eastの設立を報告。</p> <p>8) その他</p> <p><u>CHPグローバル化検討進捗の報告</u></p> <p>第一弾のFeasibility studyをアフリカ対象にて開始。主体はResearch Foundationで、8月中に予備調査の結果が報告され、次に日本CHPと共同で、8ヶ国(サハラ以南)でFeasibility studyを開始する計画。来年1月のILSI本部総会で承認をもらうべく、組織、運営、資金等の提案を今後準備する。</p> <p><u>TAKE10の商標使用について</u></p> <p>TAKE10の商標はILSI—RFが維持し、各支部にはフリーライセンスとするが、使用した場合は報告義務があることが報告された。</p> <p><u>2017年度理事会開催日程</u></p> <p>理事会出席の日程確保を容易にするため、来年の開催日を今から設定しておくことを提案；2/7、4/21、7/25、10/27の4日間。</p>
<p>9, 10月</p>	<p>第6回理事会が平成28年10月26日(水)17時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>議案 今年度収支見込一次案、来年度収支予算一次案</p> <p>事務局より説明があり、今年度見込については特に意見はなかった。来年度収支予算については、ILSI JAPAN CHPが若干の損失であり、担当理事よりCHP活動の財務基盤対策が来年度の課題であり、グローバルNPO、WHO、日本政府、グローバルな食品・飲料企業等にサポートを仰ぐ予定であると補足した。収支見込、予算共に全員一致で承認された。</p> <p>報告/決議事項</p> <p>1. 健康な食事研究会(仮)設立に向けて</p> <p>今回は会発足時のシンポジウムでの講演内容とタスクフォースのメンバーに関し、理事長より案が提示された、講演者について厚労省や農研機構、外食・中食・給食企業等からメンバーが数名推挙された。早急にタスクフォースメンバーを招集し、検討を継続する。</p> <p>2. 発展型ILSI 寄付講座について</p> <p>新講座の位置づけ、関与する大学や学部を選択等、時間をかけて進める意向や、内容はリスクよりも健康機能の追求に決定した経緯の説明が理事長よりあり、臨床系を入れるべき、機能性食品のマーカが見えると食品業界が注目する、医薬品系食品系企業の有する知見を使い、メタボ、ロコモ、認知症に対してマーカを探す、等の意見が出された。タスクフォースを組んで進めることで合意した。</p> <p>3. 来年度本部総会の概要</p> <p>今回は「Food Safety」、「Nutrition」の2つのテーマに集中。総会前に活動計画を作成し、支部間で共有。この活動計画を本部総会の一連の会議でブラッシュアップ。特</p>

	<p>に理事より意見・質問なし。</p> <p>4. ILSI 本部に報告する 2017 年活動報告案</p> <p>栄養：健康な食事研究会</p> <p>食品安全：食品微生物研究部会 MALDI-TOF/MS 分科会</p> <p>同上：NGS (New Generation Sequencing) プロジェクト</p> <p>理事より意見・質問なし。</p>
11, 12 月	<p>第 7 回理事会が平成 28 年 12 月 21 日 (水) 15 時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>議案：今年度収支見込最終案、来年度収支予算最終案</p> <p>事務局より、今年度見込が連結ベースで若干の損失になり、その原因が CHP の収入に起因するものであると説明。監事より支部総会に向けて、Q&A を作成するよう指示あり。来年度収支については、一次案を見直した結果、連結ベースでは黒字とした。理事長より、国内 PAN 活動の縮小傾向について言及あり、それについて理事間で提案が出た。担当理事より、活動を実施するための資金の確保が先決で、本部に対してグローバルに集めるようすでに提案している。1 月の本部総会で結論がでるので待つて欲しい旨説明あり。議案については、全員一致で承認された。</p> <p>報告／討議事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な食事研究会 (仮) 設立に向けて <p>設立シンポジウムの内容について、講演テーマ、講演者、パネリスト、後援団体等がほぼ決定したと事務局長より進捗状況の報告をした。外食・中食・給食業界の方々への開催の連絡方法や当日メディアへの声掛けが確認された。</p> 2) 発展型 ILSI 寄付講座について <p>年末にタスクフォースを開催し、選任メンバーが充分議論する予定を説明。</p> 3) 本部総会での発表の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・「食品安全」は、リスク問題の全体のとらえ方と特徴的な「MALDI-TOF/MS」を用いた菌種同定技術の確立を説明 ・「栄養」は、今後実施予定の「健康な食事研究会」の内容を中心に説明 ・「ポスターセッション」は、「健康な食事研究会」の活動計画内容を中心に掲載 4) 支部総会次第案 <p>議事：「平成 28 年事業活動報告書 (案)」の承認、「同決算報告書 (案)」の承認と「平成 29 年事業活動報告書 (案)」の承認、「同収支予算書 (案)」の承認</p> <p>報告：1 月の本部総会報告、前回総会で説明した理事任期期間の定款変更の結果報告案を例年よりわかりやすくし、活動の中身が見える総会にする。</p> 5) ILSI Mandatory Policies (必須方針) <p>本部が作成した、支部が従う「必須方針」の内容について事務局長が説明。順次整えるという方向で実施。</p>